

ペルー産ブドウが初めて日本に到着 新市場の幕開け

ペルー国営通信社(Andina) 2023年10月20日

ロベルト・セミナリオ駐日ペルー大使は金曜日(20日)、最初の試験輸入として60コンテナを取得する予定のフレッシュデルモンテジャパン社が輸入したペルー産ブドウの最初の荷を出迎えた。

この荷は、ペルー産ブドウへの日本市場の開放を具現化するものであり、外務省、農業開発省(農業検疫局 - Senasa)及び外国貿易観光省による共同作業の成果である。

1億2,500万人の消費者で構成される日本市場は現在、ペルーの果実輸出で最も成功した品目の1つであるブドウについて、26品種に開放されている。

ペルーの2022年のブドウ輸出額は、53の海外市場向けに13億6,200万米ドルで、前年比8.9%増加した。

地域的には、これはペルーの主要なブドウ輸出地域であるイカ、ピウラ、ランバイエケ及びラリベルタの各県に特に利益をもたらすものである。

重要なこととして、ペルー産の生鮮ブドウは、日・ペルー経済連携協定(季節別)及び環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(CPTPP)に基づき、日本への無関税アクセスを享受している。

オーストラリア 日本へのマンゴー輸出に期待

オーストラリア農業省 2023年10月24日

アルバニー政権は農業部門で大きな貿易成果を上げ続けており、日本のレストランや小売業者がより多くのオーストラリア産マンゴーを「いらっしゃいませ」と歓迎する準備が整いつつある。オーストラリア産マンゴーの日本への輸出に対する品種制限の撤廃により、オーストラリアのマンゴー産業は市場アクセスの拡大を獲得する。これまで日本への輸出が認められていたマンゴーは5品種のみであったが、今後はオーストラリア産の全品種が輸出可能となる。

このエキサイティングなチャンスは、これから始まるマンゴーの出荷シーズンと完全に一致しており、オーストラリアのマンゴー生産者と輸出業者はすぐに利益を得ることができる。マレー・ワット農水林業大臣は、この成果は、オーストラリア産青果物の市場アクセスと貿易機会の拡大に対するアルバニー政権の献身と取り組みの結果であると述べた。

ワット大臣は、「オーストラリア産マンゴーはジューシーで味が良く、世界中で人気がある」と述べ、「日本は、成長の可能性とプレミアムな価格帯を提供し、これはオーストラリア農業の将来に対する我々のビジョンと完全に一致していることから、オーストラリアの園芸にとって優先度の高い市場である。しかし、この成果の意義はマンゴーだけにとどまらない」と語った。(以下「」は同大臣の発言)

「品種制限の撤廃は、他の品目にも変化をもたらし、さらなる市場アクセスの拡大とオーストラリアの園芸部門の強化への道を開く可能性がある。これは、英国、インド、東南アジア諸国における最近の市場アクセスの成果を基礎として、農産物輸出のパイを引き続き拡大するために探求するもう一つの道である。」

オーストラリアのマンゴー業界は、日本を長期的な成長の可能性を有する市場であると捉えている。

日本はオーストラリアにとって2番目に大きな農林水産物の輸出市場であり、2022-23年度の輸出額は前年度比4%増の65億豪ドル(約6,200億円)であった。

この新しい取り決めの下での最初のマンゴーの輸出は今シーズン開始され、オーストラリアの対日農産物貿易にとって、重要な節目となる。